

H25年度 第1回高幡地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日時：9月5日（木）14:00～16:30

場所：須崎総合庁舎3階第7会議室

1 議事等

（1）産業振興計画関連 年間スケジュール等について

- ・H25年度のスケジュールを説明

（2）地域アクションプランについて

1）第2期高幡地域アクションプランの進捗状況等について

- ・上半期の総括及び分野別の重点的な動きについて説明

2）修正・追加の案件について

- ・追加

- ・葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大
- ・梶原産キジ肉の生産・販売の拡大
- ・県産竹材を活用した加工品づくりのための竹材の安定供給
- ・四万十かおりビジネス事業
- ・地域産物を活用したお魚チップスの生産・販路の拡大

について説明

- ・修正

- ・NO. 21 中土佐町地域ブランドの創出と販売促進
- ・NO. 26 久礼の浜屋敷整備事業
- ・NO. 37 四万十町の地域経済活性化の核となる宿泊事業への取組

について説明

- ・案について了承された

（3）産業成長戦略について

1）来年度以降の誘客戦略について説明

2）移住促進について説明

（4）産業振興センターの取組について

産業振興センターの取組について説明

2 意見交換

<産業振興計画関連 年間スケジュールについて>

- ・特になし

<地域アクションプランについて>

- ・アクションプランNo. 1の主要農産物販売額の27年度目標は、既に達成している。見直してはどうか。

→関係機関、実行支援チーム等と検討する。

- ・高速道路延伸の効果としては、道の駅めぐり窪川の売り上げ、来客数は1.3倍から1.5倍、海洋堂ホビー館も4月から6月は対前年比1.2倍となっている。また、海洋堂かつぱ館の2号館の建設予定や、再来年の連休前には打井川のバイパスが完成

し大型バスも受入れ可能となる予定。

- ・大正町市場には、高速道路の延伸後、四万十川流域からの観光が便利になり、集客は減っていない。「ど久礼もんのカフェ」は、「市場食堂ど久礼もん」と店名変更し、メニューも増やしたため、8月の売り上げは約2倍となっている。
- ・津野町では、岡山と香川でコマーシャルをし、天狗荘では岡山からの来客が非常に増えたが、日帰りが多い。広域でルートをつくり、商品化して経済効果につなげなければならない。
- ・梶原町では、千百年物語イベントや脱藩マラソンの参加者が増えており、7割ぐらいが愛媛県からの来客である。愛媛の南海放送と提携し積極的にPRしており、松山市まで90分、高知市まで90分という位置づけを活かしていきたい。
- ・四万十町は宿泊施設が少ないため、年間約15万人の観光客のうち、2万5千人しか宿泊できていない。観光協会の中期目標として、農家民宿・民泊、農家体験を推進していくこととしている。
- ・須崎市観光協会では、鍋焼きラーメンを横浜ラーメン博物館に3か月出店して、計画以上の売り上げがあった。修学旅行の受け入れも年々増えてきているが、宿泊施設が少ないため、民泊の実験調査をしており来年から本格的に実施できる予定。

<産業成長戦略について>

- ・移住される方のどの年齢、どの地域が多いのか。
→第1四半期で101組、昨年度は64組104名と把握している。20歳代から40歳代が3分の2程度。地域は、仕事や住宅の情報が充実している高知市が比較的多い。また、一旦高知市に移住後、最終的な移住先を探す2段階の方もいる。
- ・医療費や福祉面で自治体の負担も増えるが、移住による経済効果をどう見込んでいるのか。
→60歳の夫婦50組100人が一定の預貯金（1300万円以上）があり健康な状態で平均寿命まで生活した場合は、65億の経済波及効果があると試算されている。
- ・四万十クラインガルテンでは、農業や地域の暮らしを楽しんでいただけるようにイベント等に取り組んでおり、入居待機者も出ている。地域情報や生活の基礎データを提供していただけると、問い合わせに対応しやすい。
- ・お試し住宅は100%稼働であり、民宿の利用者から移住された方もいる。観光と移住は一体だと思うが、そこに住んでいる人と地域の魅力を発信する必要がある。
→幸せ移住パッケージシステムの情報を充実させ、地域の方や最近移住された方などの生の声を伝えていきたいと考えている。

<産業振興センターの取組について>

特になし

■お問い合わせ先

高知県産業振興推進部計画推進課（地域担当）

電話 088-823-9334

FAX 088-823-9255

メール 120801@ken.pref.kochi.lg.jp